

1 研究主題

ことばでつながる学び手の育成 ～国語科における単元構成の工夫を通して～

2 主題設定の理由

小学校では、今年度から新学習指導要領が、完全実施となった。今回の改訂では、育成すべき資質・能力が「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」という3つの柱で整理され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められている。児童一人一人がこれからの社会の変化に主体的に対応しながら、他者と協働して創造的に社会生活を送っていく力を身に付けなければいけない。

本校では、昨年度まで算数科に焦点を当て、児童が主体的に思考する場面を作り出すための教材提示や発問の工夫について研究を行ってきた。「教材提示の工夫（10のしかけ）」等を参考にして問題を提示したことや生活場面からの出題は意欲的で効果があった。しかしながら、教師主導型になりがちで、主体的に学ぼうとする意欲や態度について高まりがみられるとはいえない面もあった。また、自分の考えに根拠をもって話したり書き表したりすることに苦手意識をもつ児童も多く、個人差に開きが見られる。語彙の少なさからも、相手にわかりやすく伝えられなかったり相手の意図をくみ取り自分の考えと比べたりするような積極的な聞き方もできていない側面もあった。

そこで、学習の基盤となる資質・能力としての言語能力を身に付けさせたいと考える。言語能力は国語科だけが育成するのではないが国語科が核となるため、本年度は、国語科を中心に、身に付けさせたい資質・能力を明らかにし、「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「学びに向かう力・人間性の涵養」の3つの柱で発揮させるための学習活動を組み立てる「単元構成の工夫」と児童が共に学び合い、刺激し合いながら学びを深めていく活動に重きをおいて研究を行う。国語科学習を「言葉の力を育てる軸となるもの」と捉え、児童の言語活動を活発にし、特に読むことの指導において、教材を読み込むことにより、他の文章を読解する力がついたことが、指導者も児童もしっかり自覚できるような学びを実現していき、ことばでつながる学び手を育成していきたい。

このような取り組みを行うことにより、国語科の授業だけでなく、日常生活の中でも自分の思いや考えを豊かに表現したり、友達の意見を共感的に理解しながら聞こうとしたりする態度を育て、児童一人一人が協働的な学びの場で生き生きと活動しながら課題解決を行い、できる喜びや充実感を味わい、自分自身に自信をもった東っ子が育成できると考え、本主題を設定した。

3 研究の目標

ことばでつながる学び手の育成を目指し、思考力・判断力・表現力を育む学習指導の工夫を通して友達と協働し、学びを生かそうとする児童を育てる国語科学習の在り方を探る。

4 研究の仮説

- ・ 単元構成や学習過程の中に、言葉に着目し、吟味する活動と自分の言葉で表現し合う交流活動を継続的に設定すれば、自分の考えに根拠をもって豊かに表現する主体的な学び手を育成することができるであろう。

- ・ 観点を明確にした振り返りの場を設定すれば、自分や相手の表現を正しく評価し、相手の考えを認め、自分の考えを深めることができるであろう。

5 研究の内容と方法

- 思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業づくり
 - ① 学ぶ意欲を高め、理解していること・できることをどう使うかを身につけさせる学習過程・単元構成の工夫
 - ② 学習の見通しをもたせ、主体的に取り組むための「見通しをもとう」の活用と読書活動の充実
 - ③ 言語活動を充実させるための「構造と系統〔読むこと - 文学的な文章〕」の活用
- 主体的・対話的で深い学びへ向けて
 - ① 「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を醸成する」という視点から見た授業展開
 - ② 観点を明確にした1単位時間の振り返りと単元全体の振り返りの設定
 - ③ 根拠や主張をわかりやすく話すための話型の提示

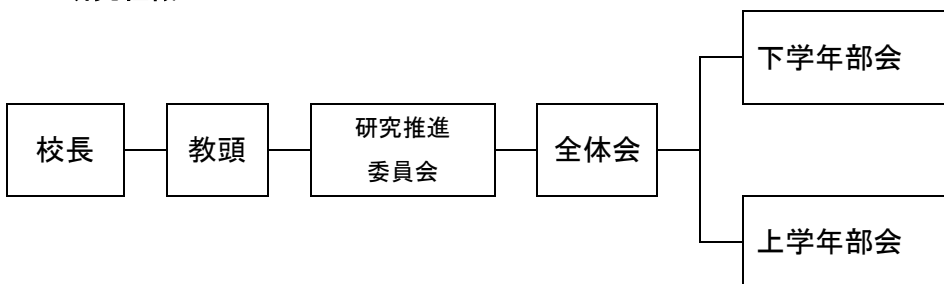
6 目指す児童像

- 低学年……楽しんで考え、相手に分かるように進んで表現できる子ども
- 中学年……自分の考えの根拠をもとにじっくりと考え、相手に応じて意欲的に表現できる子ども
- 高学年……自分の考えの根拠をもとに豊かに考え、相手や目的に応じて的確に表現できる子ども

7 具体的な取り組み

- (1) 研究の視点に基づいた研究授業を一人一回実施する。(6月～12月)
- ① 全体授業研究会を上・下学年より1回ずつ行う。他の学年はグループ授業研究会を行う。
 - ② 全体授業を行う場合は、授業案作成段階より講師を充て、指導案を作成し、事前研を行う。
 - ③ グループ授業研究会を行う場合は、各部会で検討を行う。

8 研究組織



研究会		主な活動内容	担当
全体会		<ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬授業による事前研修 ・ 授業研究会 ・ 講師招聘による理論研究 	全職員
部会	下学年部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業指導案の作成 ・ 検証授業 	山口・松浦・梶原 野田・今道
	上学年部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究会の司会・記録 ・ 授業の成果と課題 	森・松尾・川内 東島・小林・(教頭)

9 年間研究計画

月	日	曜	研 修 内 容
4	3	金	研究推進委員会（研究主題、内容、組織、活動計画の提案）
4	21	火	研究推進委員会（研究主題、内容、組織、活動計画の提案）
4	21	火	全体会（研究構想の提案）
5	20	水	全体会（理論研究）
5	27	水	全体研指導案検討
6	3	水	★全体研（講師招聘）上学年 4年1組
7	15	水	
8			
9			
10	21	水	★全体研（講師招聘）下学年
11			
11	18	水	部会（研究の振り返り）
12	9	水	研究のまとめ作成（全体会）
1	27	水	「研究のまとめ」完成
2	10	水	来年度 校内研構想

※空欄には、グループ授業研究会の日程決定後、記載する。